令和４年度　第２回　学校運営協議会　　記録

Ｒ４．11．４（金）9：20～11：20

＜参加者＞

会　長　　徳増　久子　様（障がい福祉サポートセンター「ゆうとうの風」センター長
　　相談支援事業所「風の路」所長）

委　員　　柴田　詩子　様（湖西市民生委員　主任児童委員）
　　鈴木　徹　　様（浜名学園組合事務局長）
　　内山さよこ　様（湖西市教育委員会学校教育課指導主事）
　　原田　優子　様（プライムアース EV エナジー株式会社）
　　河合　梓　　様（プライムアース EV エナジー株式会社）
　　外山　仁美　様（本校 PTA 会長）

学校関係者　校長、教頭、事務長、小部主事、中部主事、高部主事
　　総務課長、教務主任

＜議事録＞

司　会　　徳増久子会長

１、開会の言葉（教頭）

２、内　容

（１）高等部２，３年　産業現場等における実習出発式参観　（別紙資料１）
　　出発式を 30 分ほど参観

（２）地域防災学習　（別紙資料２）

協議事項：防災キャンプを開催するにあたり、地域とどのように連携していくことができるか、その手段について協議する。

提案者（教頭）より：

本校は、地震による津波の際には、地域の方々の避難所となるが、土砂災害ハザードマップより土砂災害警戒区域に指定されているため、土砂災害警戒情報が発令された際には、避難所としては機能しない。また、福祉避難所とはなっていない。

⇒発災時への備えを万全にするため、他施設（市内の小中学校）での、避難所体験訓練（防災キャンプ）を行いたい。

・参考資料として、西部特別支援学校の体育館で行った防災キャンプの様子のスライドを視聴した。

司　会：浜名特支は湖西市と浜松市の児童生徒が半数ずつ在籍している。本日は湖西市のケースについて考えていく。
もし発災した場合は、まずは地域の避難所に避難し、状況により福祉避難所が開設される。障害のある方々もまずは地域の避難所に行くという意識は保護者にあるか。
Ｆ委員：漠然と地域の避難所に行くのかなという認識だった。
司　会：学校の努力だけでなく、PTA の皆さんもどこに避難するのか知ったり、地域の避難訓練に子どもを連れて行ったりして意識を高く持ってもらえると良い。
Ｆ委員：毎年、地域の訓練に、子どもも一緒に参加している。
司　会：他の御家庭も地域の避難訓練にお子さんが参加しているのか。
Ｆ委員：今まで保護者間でそのような話題になることはなかった。
司　会：地域の避難訓練への参加の有無を調べて、その数値を上げていくと良い。

Ａ委員：主任児童委員は、民生委員とは違い、見守りやサポート的立場なので、要支援者の名簿は見られない。定例会では避難計画について話し合い、地域の人々の話はしているが、福祉避難については話していなかった。避難所は浜名特支があるから大丈夫だと思っていたが、福祉避難所ではないことを聞いて驚いた。福祉避難所として開設できないということを周知させる取り組みが必要なのでは。今後、私も地区の定例会で伝えていきたい。
司　会：浜名特支は津波には強いが、大雨や土砂災害時は危険になることをもっと周知する必要がある。また、地域に配慮が必要な子どもたちが居るということを知ってもらい、地域づくりをしていくことも大切。
Ａ委員：地域には高齢者の名簿はあるが、肢体不自由児等の配慮が必要な子どもたちの名簿はないので、必要なのではないかと思った。
司　会:デリケートな面もあるが、もしもの時のために動き出していただけるとありがたい。

司　会：市内の小中学校施設を活用した１泊２日の避難所体験についてはどう考えるか。
Ｃ委員：新居の小中学校では命山に登る防災学習をしている。鷲津は津波の影響は少ない。市内でも地域によって避難の仕方に違いがある。小中学校での避難所体験は、できる方向で進んでいけば良いが、地域の小中学校でも防災についてばらつきがあるため一緒に参加するのは難しいかもしれない。市全体の意識を上げていく必要がある。
司　会：県立と市立の垣根はあるが、地域の子どもを守るために実現させたい。一度やってみると大きな安心につながるだろう。湖西市はコンパクトな地域なので、分かり合えるはず。みんなで守っていける地域になると良い。

司　会：浜名学園も福祉避難所になっているがどうか。
Ｂ委員：浜名学園は市から福祉避難所に指定されているが、緊急時の自家発電設備がない。電気がないとライフラインが止まり、福祉避難所に指定はされているが、実際には機能できない。市に相談して、令和６年度に自家発電機を付ける予定である。

今は「自助共助」が基本の考え方。大災害では行政が機能しないことがある。市が何とかするのではなく、自分たちでやるという意識でいた方が良い。訓練も人に頼ることを前提に行うのではなく、現実に即した訓練が大事である。

各自治会で独自のマニュアルを作るように市から指示が出ており、最近は自治体で何ができるかを考え始めている。実際の災害時は、市の職員も教員もいない状態で対応することを知る必要がある。

司　会：他者は頼れない。でも、子どもたちは頼らざるを得ない。教員がいれば良いが、いない場面の時に何が必要なのか、物品だけでなく、人の準備も必要である。地域にどのように応援団を作っていくか、物品だけでなく支援体制を作っていくことがポイントになってくる。

本校職員：地域の方や保護者に、本校は福祉避難所ではないこと、（立地の面からも）物資がなかなか来ないことを知っていてほしいし、もっと知らせることが大事だと思う。

Ｂ委員：電気が使えないと、エレベーターも水も使えない。タンクに水が残っていれば使えるが、停電時はポンプが機能しない。国から 72 時間は持ちこたえるような発電機を設置するように言われている。

司　会：子どもたちは暗いと不安になるので、やはり明かりは欲しい。また、医療的ケアが必要な子にとっては電気の確保は必須である。

司　会：企業からの御意見を伺いたい。

Ｅ委員：学校では引き渡し訓練は行っているか。

教　頭：毎年、実施している。今年度は、土砂災害警戒情報が発令されたため、訓練ではなく実際の保護者引き渡しも行った。

Ｅ委員：（大雨や土砂災害時は）ここでは避難所としての対応が難しいということを、保護者に伝えていく必要がある。自分が保護者なら安否が心配。早めに判断して速やかに保護者に引き渡したほうが良い。

司　会：避難訓練する際は、想定をはっきりする必要がある。最近だと南海トラフなど、具体的な想定をし、学校で発災した場合は学校で、土日の場合は自宅で安否をチェックするようにする。

西部特別支援学校で行った防災キャンプでは、ボランティアがいたが、地域にそのような人材や団体はあるのか。足湯ボランティアなどは、ささやかだけど災害時には良いと取り組みだと思う。企業ではボランティア組織はあるか。

Ｄ委員：組合で川の清掃などのボランティア活動をしている。会社としては動けないが、組合なら動けるかもしれない。

Ｅ委員：弊社の体育館が避難所となっていて、受け入れ準備はしている。学校の立地よりは土砂災害に対して安全だと思う。

Ｄ委員：避難所としてぜひ使えるものは使ってほしい。

司　会：今までは学校で訓練をしてきたが、特に特別支援学校では学区（地域）で、有機的につながっていく活動が本当に役に立つ。単発的な活動ではなく、何年もつながっ

た活動ができていくと教育活動も強くなるし、地域としても強くなると思う。皆さんからたくさんの良い意見が出た。私は浜松西区の福祉事業所をやっている。浜松市は西・南（障がい相談支援センター）というサポートセンターがあり、夏に就労Ｂ型の施設での発災を想定し、福祉避難所の開設訓練を行った。どこに避難させ、避難所を開設するか、避難所開設までの受付業務など、具体的に訓練を行った。そのような取り組みを今後、地域でもできると良いと思う。

（３）その他

次回は、令和５年２月６日（月）第３回学校運営協議会　開催予定